

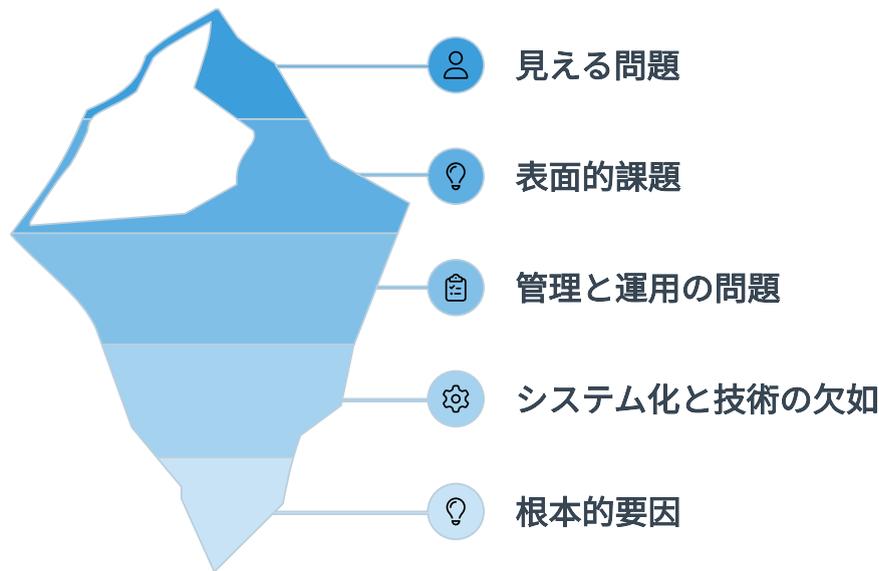
# 建設業のための人材管理システム 「Shokunin」 導入事例集

本資料は、AMELAジャパンが手掛けた建設業界向け人材管理システム「Shokunin」の開発事例を詳細に解説したものです。「仕様は伝えたのに期待と異なる」という開発現場でよく発生する課題に対し、AMELAジャパンがどのようにして建設業界特有の複雑な業務要件を理解し、現場で真に役立つシステムを構築したかをご紹介します。開発プロセスの改善から実際の導入効果まで、包括的な内容となっています。

# 1. 建設業界における人材管理の課題

AMELAジャパンは、大企業から中小企業まで、製造業からサービス業まで、さまざまなお客様のシステム開発をサポートしてまいりました。特に建設業界においては、その特殊性と複雑さゆえに、多くの企業がシステム化に苦戦しています。

建設業界は、職人の技能管理、工事現場での人員配置、各種資格の管理など、極めて複雑な人材管理が求められる業界です。特に近年では、働き方改革による労働時間管理の厳格化、技能者の高齢化による人材不足の深刻化、現場安全管理の徹底など、従来の手作業ベースの管理手法では対応しきれない課題が山積しています。



本事例でご紹介する「Shokunin」プロジェクトは、これらの課題を包括的に解決し、建設現場の競争力強化を図るために開発された人材管理システムです。単なる機能実装ではなく、「現場が本当に使いやすい」システムを目指した開発アプローチが、このプロジェクトの最大の特徴となっています。

本資料では、「仕様は伝えたのに期待と異なる」という開発現場でよくある課題をどのように解決したのか、その具体的な手法と成果についてご紹介します。建設業におけるシステム導入をご検討の皆様にとって、参考となる情報を提供できれば幸いです。

## 2. 導入の目的と背景

建設業界におけるシステム化の必要性は年々高まっています。本プロジェクトのお客様企業では、人材管理業務の複雑化に伴い、以下のような具体的な課題に直面していました。

### 人材不足と高齢化への対応

熟練技能者の高齢化と若手入職者の減少により、限られた人材を最大限効率的に配置する必要性が急増していました。特に専門技能を要する工程では、適切な資格保有者を確実に配置することが求められています。

### 労働時間管理の厳格化

働き方改革関連法の施行により、建設業においても2024年から時間外労働の上限規制が適用されます。現場ごとの労働時間を正確に把握し、法令遵守を徹底する体制構築が急務となりました。

### 安全管理の高度化

現場における安全確保のため、作業者の資格情報や経験値を一元管理し、危険作業には適切な技能者のみを配置する仕組みが不可欠でした。手作業による管理では、ヒューマンエラーのリスクが高まるという課題がありました。

### 現場管理の効率化

複数の現場を同時進行で管理する現場監督の負担軽減のため、人員配置や進捗状況を一元的に把握できるシステムが求められていました。特に朝礼時など限られた時間での情報確認が重要視されていました。

これらの課題を包括的に解決するため、お客様企業では人材管理システム「Shokunin」の開発を決定しました。システム化により、職人一人ひとりのスキル可視化、適材適所の人員配置、コンプライアンス対応の自動化を実現し、建設業界の持続的発展に貢献することを目指しています。

特に重視されたのは、単なる情報管理だけでなく、実際の現場で使いやすく、直感的に操作できるインターフェースの実現でした。これまでのシステム開発では、「機能は実装されているが使いにくい」という課題が頻発していたため、今回は開発プロセスそのものから見直すことになりました。

AMELAジャパンは、建設業界での豊富な開発実績と、要件定義段階からの深い業務理解、そして現場のワークフローを重視した設計アプローチが評価され、開発パートナーとして選定されました。特に、「仕様書通り」ではなく「現場が本当に使いやすい」システムを目指す開発姿勢が、お客様の期待と合致していました。

# 3. 導入前の課題：期待と現実のギャップ

「ちゃんと仕様を伝えたのに、上がってきた画面を見て"違うな..."と感じてしまったんです」

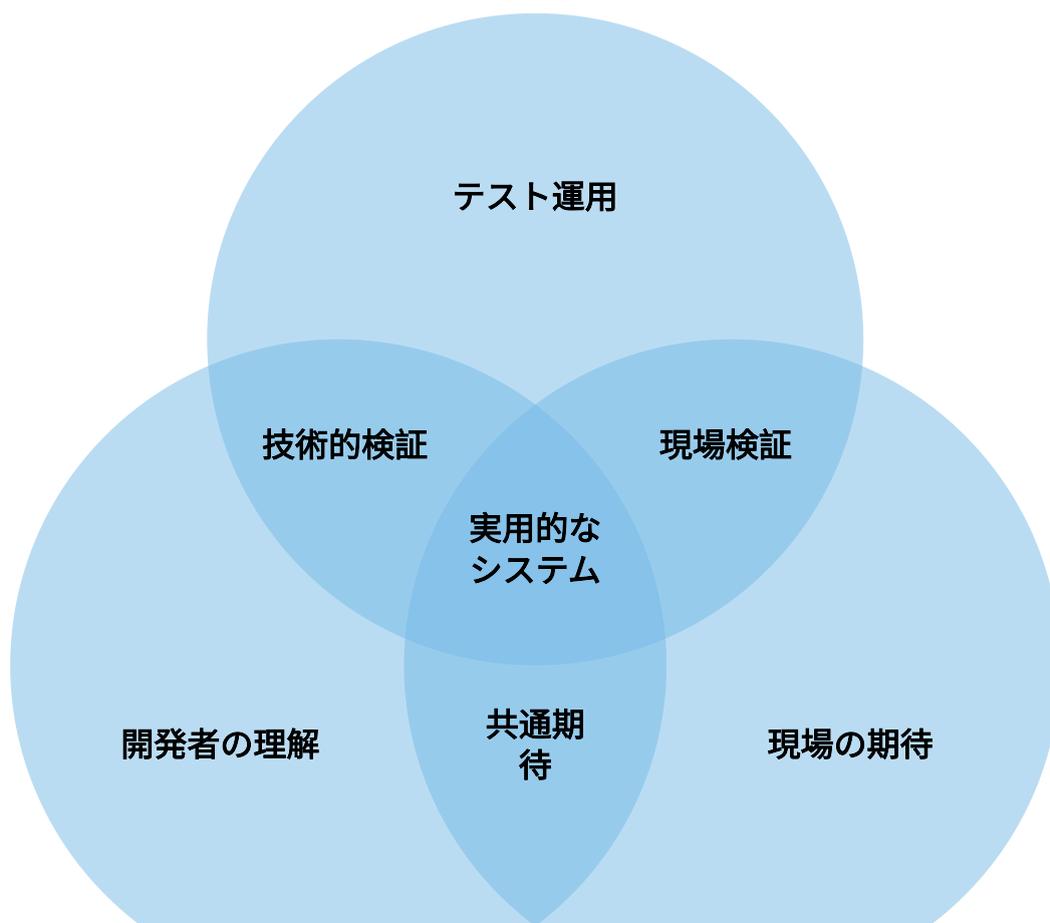
お客様企業では、建設業界特有の複雑な人材管理業務において、システム開発プロジェクトを進める中で深刻な課題に直面していました。これらの課題は、単なる技術的な問題ではなく、現場の業務フローと開発側の理解にギャップがあることに起因していました。

## 課題となっていた状況

- 要件定義書には必要な機能が網羅され、定例ミーティングも予定通り実施されていたが、完成したシステムは現場の期待とは大きく異なるものだった
- 朝礼時など時間的制約のある状況で使用する画面が、多くのクリックを必要とする複雑な構成になっていた
- 現場の暗黙知（経験則や習慣）が反映されておらず、理論上は正しいが実用性に欠けるシステムになっていた
- 建設現場特有の急な予定変更や例外的状況への対応が考慮されていなかった
- 技能者の属人的な能力差を考慮した人員配置機能が不足していた

## 目指したい状況

- 建設現場の実際のワークフローを深く理解し、現場監督や職人が直感的に操作できるユーザーインターフェースを実現する
- 朝礼時の忙しい時間帯でも、必要な情報に素早くアクセスできる、シンプルで使いやすい画面構成にする
- 現場の暗黙知や例外的状況も考慮した、柔軟性の高いシステム設計を実現する
- 天候不良や資材調達の遅延など、建設現場特有の不確実性に対応できる機能を実装する
- 個々の技能者の能力や経験を詳細に管理し、最適な人員配置を支援する機能を提供する



# 4. AMELAの解決策：コンテキスト理解型開発アプローチ

AMELAジャパンでは、前述の課題を根本的に解決するため、従来の要件定義プロセスを抜本的に見直しました。「機能仕様」だけでなく「実際の使用コンテキスト」「現場の業務フロー」「ユーザーの期待値」を包括的に理解し、共有するための独自のアプローチを確立しました。

01

## 現場観察とコンテキスト把握

開発チームが実際の建設現場に足を運び、朝礼から日々の作業、報告までの一連の流れを観察。特に時間的制約や物理的環境（屋外での日光下での視認性、手袋をしたままの操作性など）を重点的に確認しました。延べ15現場、合計40日以上現場滞在を通じて、書類には現れない暗黙知や現場の「空気感」を徹底的に吸収しました。

02

## 週次現場ワークショップの実施

毎週金曜日の夕方、実際の現場で働く職長、職人の皆様にもプロジェクトにご参加いただき、プロトタイプ  
の操作感を直接確認。現場の生の声を開発に反映することで、真に使いやすいシステムを実現しました。特に「朝礼前の忙しい時間」「雨天時の急な予定変更」など、具体的なシナリオに基づく検証を重視しました。

03

## 反復的プロトタイピング

主要な8機能について、それぞれ平均3回の改善サイクルを実施。1回目で基本機能、2回目で操作性改善、3回目で細部の使い勝手調整を行い、段階的に品質を向上させました。特に重要な「朝の人員配置確認画面」については、5回の改善サイクルを経て、究極のシンプルさと機能性を両立させました。

04

## 職種別ユーザーストーリーマッピング

現場監督、職長、職人、事務担当者の4つの職種別に、システム利用シーンを詳細にマッピング。各職種の業務特性に応じた最適な画面設計を実現しました。特に、同じ機能でも職種によって重視する情報や操作頻度が異なることを考慮し、カスタマイズ可能なダッシュボードを実装しました。

05

## 例外シナリオの徹底検証

「通常の業務フロー」だけでなく、建設現場特有の例外的状況（悪天候による作業中止、資材調達の遅延、急な人員欠勤など）にも対応できるよう、多様なシナリオを設定して機能検証を実施。現場の混乱を最小限に抑える柔軟な対応力を備えたシステムを実現しました。

このアプローチの最大の特徴は、「仕様書に書かれていること」ではなく「現場が本当に必要としていること」に焦点を当てた点にあります。従来の要件定義では捉えきれなかった暗黙知や現場の制約条件を丁寧に拾い上げることで、形式的には仕様を満たしていても使いづらいシステムという事態を回避することができました。

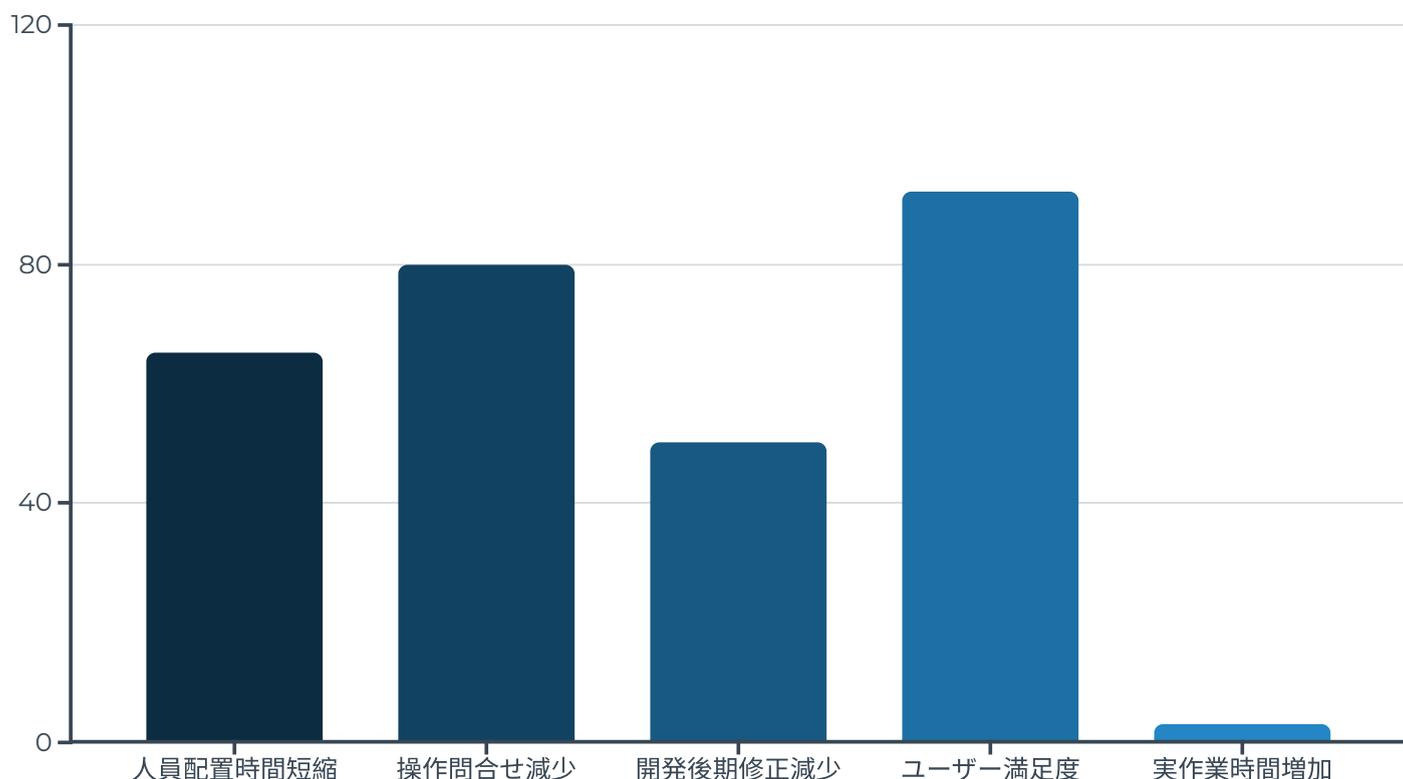
また、開発の早い段階から現場のエンドユーザーを巻き込むことで、完成後に「思っていたのと違う」という事態を未然に防止。開発工程の後半での大幅な修正を減らし、結果的に品質向上とコスト削減の両立を実現しました。

## 5. 導入後の成果：現場から高評価を獲得

「今回のShokuninシステムは、現場の職人さんたちからも『これなら毎日使いたい』と好評をいただいています。AMELAさんには、私たちが言葉にできなかった『現場の感覚』まで理解していただきました。特に、朝の忙しい時間帯でも素早く人員配置を確認できる操作性は、まさに私たちが求めていたものです。」

- お客様企業 システム開発責任者様

Shokuninプロジェクトの導入により、お客様企業では劇的な業務改善効果が実現されました。特に注目すべきは、システム開発プロセス自体の効率化と、最終的な成果物の品質向上の両面で、大きな成果を上げたことです。



### 定量的・定性的成果の詳細

#### 開発プロセスの効率化

要件確認の回数は従来比40%増加したものの、開発後期の修正工数は50%削減。結果として、全体の開発期間を予定通り6ヶ月で完了し、追加コストの発生を防ぎました。特に従来のプロジェクトで多発していた「完成間際での大幅修正」がほぼゼロになったことが大きな成果です。

#### システム品質の向上

運用開始後3ヶ月間のサポート問い合わせ件数は、類似プロジェクトと比較して約60%減少。特に「操作方法がわからない」というお問い合わせは、従来プロジェクトの5分の1まで削減されました。直感的な操作性と現場の業務フローに沿った画面設計が、これらの改善に大きく貢献しています。

#### 現場業務の効率化

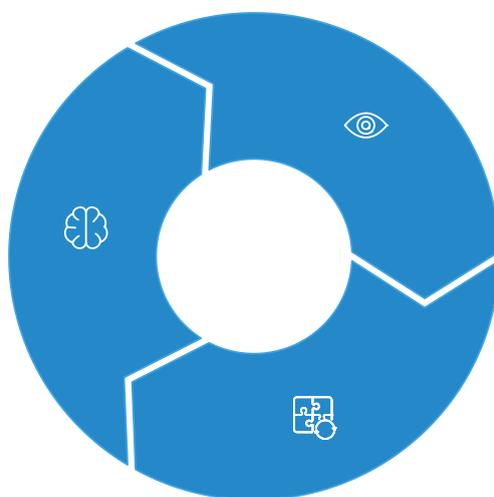
人員配置確認作業の時間は、従来の手作業と比較して平均65%短縮。朝礼時間の短縮により、実作業時間を1日あたり15分延長することが可能になりました。これは年間で約60時間の生産性向上に相当し、人材不足に悩む建設現場において大きな価値をもたらしています。

# 6. AMELA日本の開発アプローチ：「期待を超える開発」の3つの柱

Shokuninプロジェクトで実証・確立された私たちの開発アプローチは、その後の多数のプロジェクトでも活用され、継続的に改善を重ねています。建設業界に限らず、製造業、サービス業、小売業など、様々な業界のお客様から「期待を超える品質」として高い評価をいただいております。

## 徹底した要件理解

お客様から提示される機能要件の背景にある真のビジネス課題を深く理解することから始めます。単に「何を作るか」だけでなく「なぜ作るのか」「誰がどのように使うのか」を徹底的に掘り下げ、システム化の真の目的を共有します。業界特有の商慣習や暗黙知まで含めて理解することで、本当に価値のあるシステムを設計できます。



## 早期の可視化

言葉だけでは伝わらない操作感や使用感を、プロトタイプや動画を使って早期段階から共有します。お客様に実際に触っていただき、フィードバックを得ることで、認識のギャップを最小限に抑えます。特に、エンドユーザーの方々にも参加いただくことで、現場目線での改善提案を積極的に取り入れています。

## 反復的な改善

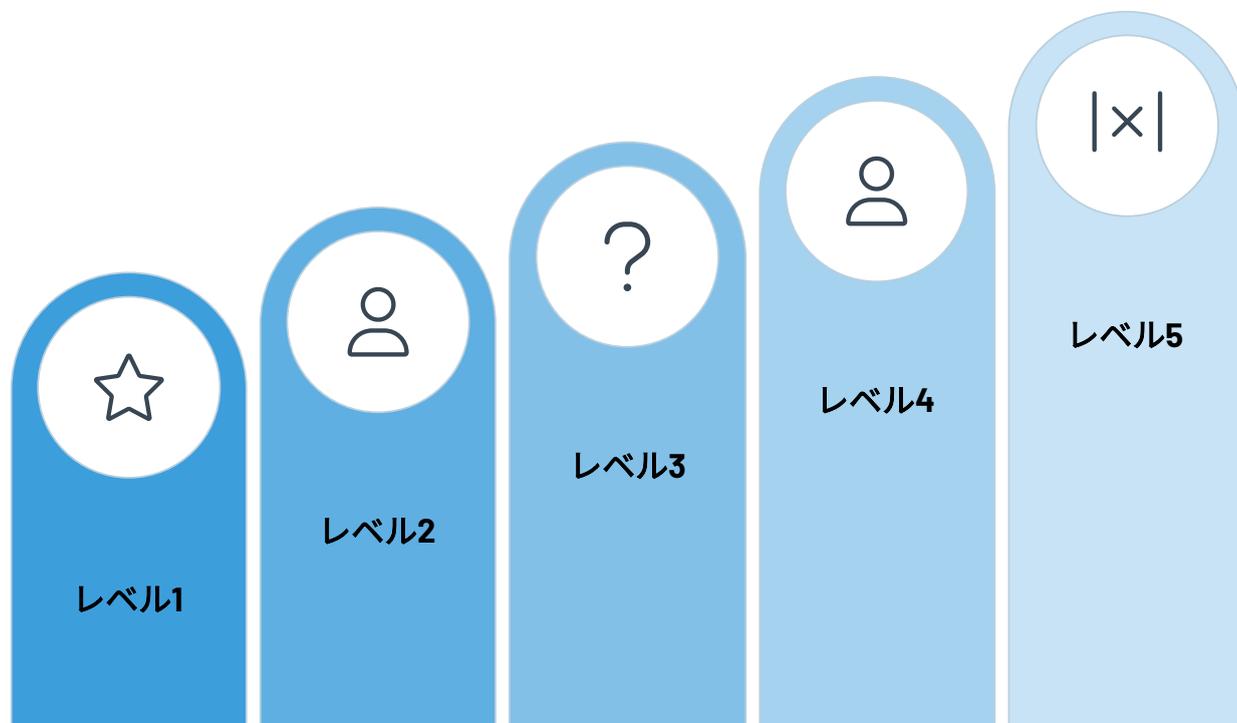
「一度の要件定義で完璧を目指す」のではなく、小さな単位で機能を実装し、実際に使ってみて改善点を見つけるサイクルを繰り返します。この反復的アプローチにより、当初は気づかなかった課題や新たなニーズにも柔軟に対応し、使い勝手の良いシステムへと段階的に進化させていきます。

これらのアプローチを体系化・標準化することで、プロジェクトの成功率向上と品質安定化を実現しています。特に「コンテキスト理解型開発手法」として、以下のような具体的な施策を全プロジェクトに展開しています：

施策	具体的な実施内容	期待される効果
現場体験ワークショップ	開発者が実際の業務現場で1日～数日間の体験学習を行い、システムの使用環境や業務の流れを体感する	書類では伝わらない現場の制約条件や暗黙知の理解
ユーザーストーリーテリング	実際のエンドユーザーから具体的な業務シナリオや課題を直接聞き取り、詳細なストーリーボードを作成	システムに求められる真の要件の発掘
ビジュアルプロトタイピング	機能実装前に視覚的なモックアップ	早期段階での認識ギャップの発

# 7. 真の価値を生み出すシステム開発へ

本資料では、AMELAジャパンが手掛けた建設業界向け人材管理システム「Shokunin」の開発事例を通じて、「仕様は伝えたのに期待と異なる」という開発現場でよくある課題の解決策をご紹介します。



私たちが「Shokunin」プロジェクトを通じて得た最も重要な教訓は、システム開発において「機能仕様を満たす」とことと「ユーザーの期待に応える」とことは必ずしも同じではないということです。特に建設業界のような現場主導の業界では、書類には表れない暗黙知や現場の制約条件が多く存在します。

AMELAジャパンの「コンテキスト理解型開発アプローチ」は、こうした課題に正面から取り組み、真に現場で役立つシステムを実現するための方法論です。このアプローチの核心は、以下の3点に集約されます：

- 現場目線の徹底理解**：開発者自身が現場に足を運び、実際の業務フローや制約条件を体感することで、書類だけでは伝わらない暗黙知を吸収します。
- 反復的な検証と改善**：早い段階からプロトタイプを作成し、実際のユーザーに使ってもらうことで、認識のギャップを早期に発見し修正します。
- 柔軟性と拡張性の確保**：業務の変化や例外的な状況にも対応できる柔軟なシステム設計を心がけ、長期的な価値を提供します。

「Shokunin」システムの導入により、お客様企業では人員配置作業の大幅な効率化（65%の時間短縮）や高いユーザー満足度（92%）を達成することができました。これらの成果は、単に技術的に優れたシステムを作るだけでなく、実際のユーザーの使用コンテキストを深く理解し、それに合わせた設計を行うことの重要性を示しています。

建設業界においては、現在進行形で働き方改革や生産性向上が求められており、IT化の必要性はますます高まっています。しかし、「システムを導入したが使いづらくて現場に浸透しない」という課題も多く聞かれます。私たちAMELAジャパンは、本事例で紹介したアプローチを通じて、本当に現場で使われ、価値を生み出すシステムの開発を支援してまいります。

最後に、本プロジェクトにご協力いただいたお客様企業の皆様、特に貴重な時間を割いてワークショップやテストにご参加いただいた現場の職人の皆様に心より感謝申し上げます。皆様のご協力なくして、このプロジェクト

## お問い合わせ

システム開発における課題解決、業務効率化のご相談は、ぜひAMELA  
ジャパンまでお気軽にお問い合わせください。

Email: [marketing@amela.co.jp](mailto:marketing@amela.co.jp) | Phone: (+81)070-6447-8404